

経済効果と付加価値を創造する生産現場の情報専門誌

Journal of Economic Maintenance Tribology

潤滑経済

第704号 令和5年11月5日発行（毎月1回5日発行）

昭和47年9月22日 第3種郵便物認可 ISSN 0916-6890

2023
No.704



●特集Ⅰ 潤滑剤と金属加工油の最近の動向

新しい化学物質管理／風力発電機の長寿命化に向けた潤滑油剤の開発動向／植物由来の合成炭化水素基油を使用した潤滑油の開発／環境に優しい硫黄系極圧剤の開発動向／環境対応型フッ素系溶剤の今後の展望

●特集Ⅱ 潤滑・AE 診断の動向

潤滑油センサを用いた鉄道車両用機器の状態診断／AE法を用いた円すいころ軸受の焼付き予兆検知



CHEMIC

Since 1969

55th Anniversary

これからも

お客様に

WAO!

を提供します!!

CHEMIC

<https://www.chemicool.co.jp/>

創業55周年 和歌山への新拠点移転で 生産能力拡大を目指す

～株式会社ケミック 代表取締役社長 蓼沼 憲 氏に聞く～

水溶性切削液ケミクールや洗浄液ケミQなどの化学品を提供する(株)ケミックは1969年に尾崎 勝一 氏、菊 修 氏が大阪市浪速区で事業を始めた。

創業55年を迎え節目の年となる本年10月には、大阪府和泉市テクノステージから和歌山県橋本市紀ノ光3-7-1に新たに本社・工場を移転した。

今回は、蓼沼 憲 代表取締役社長（写真1）に同社製品や企業活動の特長と和歌山本社工場での生産能力の拡大による今後の抱負や展望についてお聞きした。

一 会社や製品の特長を教えてください

主力製品は、水溶性切削油剤のケミクール、不水溶性切削油のケミロンカット、加工後の洗浄工程に必要な洗浄剤のケミQなどが代表的な製品です。またお客様には金型メーカーも多く、放電加工油や添加剤、ハンドクリーナーなどの周辺機器製品が次々とラインナッ

プに加わりました。

創立当初はソリュブルやソリューションなどのケミカルタイプの水溶性研削液に特長を持ち、その後エマルジョンタイプや不水溶性の切削油と全般に油種が増えてきた経緯があります。

地域の販売代理店を通じて販売していますが、お客様は切削油に対して、加工精度の向上、ワークに対する変色など様々な問題意識をお持ちです。私自身も名古屋支店で営業担当をしていた頃に、代理店とお客様を訪問してこのような生の声を聞き、商品開発に生かしながらお客様へ商品の提案をしてきました。代理店と弊社営業や技術スタッフが連携しながら、ユーザーニーズを探り商品をカスタマイズしていくということが会社の特長だと思います。

一 SDGs宣言書を2月に出されました

環境に対する要求が厳しくなっていますが、2023年2月には国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、社会経済（働きがい）、環境・経済（環境配慮型サービス・製品の提供）、社会・経済（教育への貢献）、環境・社会・経済（災害・事故・事業リスクの未然防止）について、持続可能な社会の実現に向けた活動をしています。

現在、地域貢献活動に積極的に参加しており、大学生のインターンシップを受け入れ企業体験の実施や、地元和歌山県の高校生に会社見学の場を提供して地元人材の入社の機会



写真1 蓼沼 憲 代表取締役社長

を作っています。

働きがいという点では、社員には安心して働けるような企業運営や、優良従業員の表彰を社内だけではなく和泉市商工会議所でも行い、モチベーションのアップにつなげてきました。今後橋本市でも同様な取組みを考えています。

ーマスコットキャラクターや動画配信などにも積極的です

2015年頃からはケミックのペール缶デザインをモチーフにマスコットキャラクター「ケミックル」(図1)を作成して、展示会のブースで壁紙に使用したりしています。最近ではこのキャラクターでLINEスタンプの展開もしています。企業紹介の動画も作成しています。目的としては、お客様に見てもらうことも大切ですが、一番のターゲットは就職活動をする学生です。切削油剤は裏方の産業であるため一般の方々の目に触れることはありませんので、少しでも学生に会社のことを知ってもらおうということで始めました。学生は動画サイトを見ることで仕事の内容を掴みやすく、また友人や両親にもどんな会社かということを説明することができます。お客様や代理店の方もさることながら、特に若い人たちに见てもらっているようです。

一和歌山本社・工場での生産能力と自動倉庫の効率運用

新工場では8トンの製造設備が2台、4トンの製造設備が4台となり、これまでの1.5倍の製造能力を擁するようになりました(写真2・3)。

これまで設備能力の問題でお断りしていた仕事もありましたが、設備を増強し、また新型自動ラック倉庫による効率運用により、今後は生産能力をアップして、3年後には現在の1.5倍の生産を目指しており、5年後には第2工場の建設も視野に入れています。



図1 同社のキャラクター「ケミックル」



写真2 和歌山県橋本市の新本社・工場

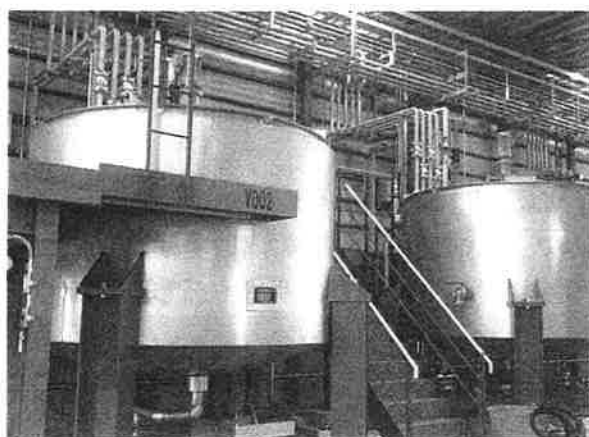


写真3 新設の製造設備

また、これからは同業者同士であっても競合する同じような商品を別々に作り続けるのではなく、汎用品は共同で生産するなどしてコストダウンや効率化を図ることも必要では

ないかと考えています。このようなこともあり生産能力の増強は喫緊の課題でした。

ー今後の抱負や展望をお聞かせください

時代の流れとともに、環境に優しい製品やサービスの需要は高まっています。そのためにはユーザーファーストの視線でニーズを正確に捉え、それに応じた製品やサービスを提供することで企業の成長や継続的な利益を得ることが欠かせません。

私たちの長期的な目標は、100年続く企業を創ること。社員が安心して働ける環境を提供し、企業としても継続的に存在できるようにしたいと考えています。現状、すべての社員が仕事にやりがいを感じてもらっているわけではないでしょうから、やりがいを感じてもらえるよう魅力ある職場作りと人材育成にも力を入れる必要があると感じています。

創業55周年の年に和歌山本社・工場を開設し、9月1日には竣工式を行いました。主要な代理店や仕入先を始め橋本市の市長など約140名に参加していただきました(写真4)。当初予定より多くのお客様にお越しいただき、これまでの仕事が認められた結果かなと思っています。これからもその期待を裏切らないようにしていかないとはいけません。

そのために、第一に、お客様が使って満足してくれることを目指しています。お客様である製造現場では女性従業員も増えていますので、水溶性切削油剤の腐敗臭や肌荒れなど環境に対する評価もますます厳しくなっています。このようなおの改善のための商品開発を喫緊の課題とし、製品化することで環境への配慮という点で社会貢献していきたいと考えています。

ーありがとうございました

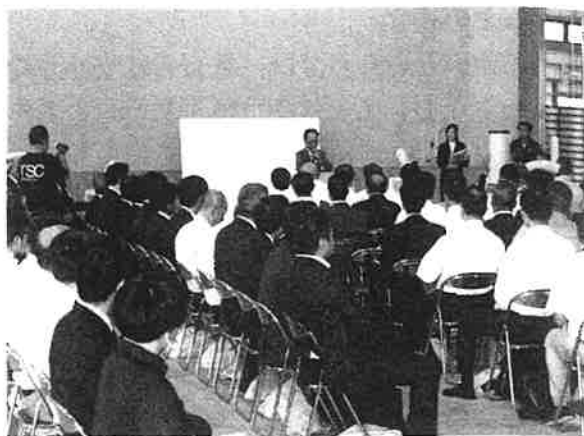


写真4 和歌山本社・工場竣工式の模様

沿革

1969年 7月	尾崎勝一、菊修、両名において大阪市波速区元町1-3-19に設立
1970年 3月	大阪市西成区津森に新工場設置
1972年 6月	東京支店開設
1979年12月	大阪府堺市に新工場設置、津森工場閉鎖
1982年 6月	名古屋支店開設
1984年10月	八尾研究所開設
1991年12月	大阪市浪速区1-5-7に本社移転
2001年 2月	大阪府和泉市テクノステージ1-2-1に本社、工場、研究所を新築移転
2011年 4月	中国・大連市にケミック（大連）工業有限公司を設立（100%独資）
2013年 4月	ケミック（大連）工業有限公司、工場稼働開始
2023年10月	和歌山県橋本市紀ノ光台3-7-1に本社・工場を新築移転

■問合せ先

株式会社ケミック

本社、工場、研究所

〒648-0007 和歌山県橋本市紀ノ光台3-7-1

TEL 0736-36-6500 FAX 0736-36-6501